

議 事 録

会 議	長野市中心市街地活性化協議会 第二回運営会議
議 事	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「長野市中心市街地活性化基本計画策定委員会」での検討経過 (2) 「長野市中心市街地活性化協議会設立説明会」の報告 (3) 協力会員の申し込みについて (4) 今後の進め方について (5) その他
日 時	平成 18 年 12 月 27 日 (水) 13 : 30～15 : 30
場 所	長野商工会議所 会議室 (2 階)
出席者 (敬称略)	<p>(運営委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)まちづくり長野 塚田国之 (会長)、越原照夫 ・長野商工会議所 青木恵太郎 (副会長)、渡辺晃司 (副会長) ・長野市役所 中村治雄、小池睦雄 ・長野経済研究所 平尾勇 <p>(タウンマネージャー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)まちづくり長野 服部年明 <p>(監査役)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野信用金庫 西澤章夫 <p>(市担当課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり推進課 丸山次長、横畷室長、久保係長、今井主査、高野主査 ・商工振興課 島田課長、伝田補佐、小林係長、北原主査
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ①会議次第 ②「長野市中心市街地活性化基本計画策定委員会」での検討経過 【資料 1】 ③「長野市中心市街地活性化協議会設立説明会」の報告 【資料 2-1、2-2】 ④協力会員の申し込みについて 【資料 3】 ⑤今後の進め方について 【資料 4】

内 容

【資料 1】基本計画策定委員会での検討経過（説明：まちづくり推進課 今井主査）

- ・面としての回遊性のあるまちづくりを目指していく。
- ・今まで 4 回の策定委員会を開催し、現況、現計画の事業評価、課題抽出、新計画の基本方針、新規事業案と検討してきた。
- ・次回の 5 回目は、更なる新規事業の提案、基本計画素案の提出について検討し、年度内の国申請を目指していく。

【資料 2-1、2-2】協議会設立説明会について（説明：まちづくり長野 越原部長）

- ・10 月 23 日～27 日まで説明会を実施した。125 団体に案内を出し、70 団体 86 人が出席。

【資料 3】協力会員の申込について（説明：まちづくり長野 越原部長）

- ・10 団体から申込みをいただいている。

【資料 4】今後の進め方について（説明：まちづくり長野 越原部長）

- ・2 月中旬完成の素案の前段階として広く意見を聞きたい。市の策定中の資料を投げて意見を吸い上げていきたい。協力会員もあわせて増やしていきたい。
- ・新規事業の創出を図ることと、動き出しつつある事業については早いタイミングでプロジェクト化していく。
- ・長野駅前 A 3 地区の合意形成については県の補助金を申請中。

——以上、議事について全て承認。

～その他意見交換～

(B 氏)

- ・トランジットモールだと車をとめてしまうイメージで一部商業者にアレルギーがある。歩行者優先道路なのだが、言葉に夢がないから、ふれ愛通りという言い方をしている。

(A 氏)

- ・歩行者優先道路の中には音響施設事業も入ってくるのか。びんずるで毎回 400 万～500 万円かかっている。補助金をもらって音響施設を整備するやり方もある。

(B 氏)

- ・ふれ愛通りは、ただ歩けといっても歩けない。仕掛けをつくっていく必要がある。音響はその一つになり得る。

(D 氏)

- ・ふれ愛通りは当面は新田町交差点から大門交差点までで実施する。ハード整備に係るものは最初に提案があればやりやすい。

(B 氏)

- ・音響設備は以前に話しが出たときは地元負担が課題だった。各商店会で 100 万円の負担

という話だった。国からどれくらい補助金が出るのか。

(D氏)

- ・音響設備設置は、安全、安心の緊急連絡の視点で考えたほうがいい。

(A氏)

- ・BGMのように、常時音楽を流すわけではないということを最初に言うておかないと。

(E氏、D氏)

- ・BGMはダメだと思う。

(F氏)

- ・基本計画には個別に具体的な事業を載せていく。安全安心は大事な話だが、賑わい活性化の視点で民間も金を出す、それに行政も金を出すという一体での取り組みにしたてていかないといけない。

(A氏)

- ・音響設備整備は具体的な話になると、所有権はどこか、減価償却をどこでやるのか等いろいろ問題も出てくる。きちんと事業計画をたてたほうがいい。実施主体、使用基準等整理していかないと後でコントロールできなくなる。例えばまちづくり長野が補助金で整備して、びんずるから使用料をもらって10年くらいで償却していく。商店会から100万円負担してもらいよりも、まち長野が整備してビジネスとして賃貸収入で管理していく。そういうやり方のほうがうまくいくような気がする。

(D氏)

- ・設立説明会では、5年間ではなく将来にわたっての長野市の活性化のための話が出ている。そのズレをどう考えたらいいか。

(G氏)

- ・各事業内容について、もう少し明確なものはあるのか。

(F氏)

- ・三月末には国に計画を提出していく。前倒しでいろいろな事業のご意見をいただきたい。基本計画策定委員会で検討しているので、そちらの議論にご意見をいただきたい。
- ・特に都市福利施設、まちなか居住など、ストーリーが書きづらい。ぜひそういう部分の提案で協議会の力をいただきたい。
- ・協力会員には、自分は中活のためにこういう事業をやりたいからという方に協議会に入ってきてもらいたい。

(D氏)

- ・検討中の新たな中活戦略、基本方針等を土台にして、門前町を歩いて住んで、賑わいを感じたりといったストーリーが伴わないといけない。その物語に出演してもらう事業をつくってそれを基にして説明していかないと。
- ・門前町の整備のために、必要な条件は何か。ハード事業、ソフト事業。お金さえあればできるもの、できないもの。何か前提条件があるはず。

(E氏)

- ・ブロック別、市主体のもの、民間主体のもの。ハードソフト。等で整理して肉付けして

いったらどうか。

(F氏)

- ・協議会運営会議をどうするかにつながってくる話。例えばまちなか居住をどうするかといったときに、仮に今 3 万人しかいないが、それをどのくらい増やすか、増やすにはどんな方法で増やすか、これを現実的にどうするか。協議会でワークショップ的なものでテーマごとに組み立てていってそれを市に提言してもらい、市はそれを受けて検討する。プロジェクトごとに組み立てていったらもう少し人が必要だが。

(A氏)

- ・住宅、交通関係、福祉など、協議会の趣旨からいってもそういうところが入ってきてもいい。

(E氏)

- ・そういうところとプロジェクトを組み提言していく